



～ようこそ水の生まれる森へ～

高山キャンプ場

森林環境学習「やまのこ」事業



森林環境学習「やまのこ」事業とは？

「やまのこ」事業は平成17年に制定された「琵琶湖森林づくり条例」の一環として、平成19年度より段階的に実施され、平成21年度に完全実施となった県内の小学4年生を対象とした森林環境学習です。

当事業は学校教育の一環として教育課程に位置づけられており、1日又は1泊2日の日程で、各学校の選択した県内8箇所の受け入れ施設の中の一つおよびその周辺の森林で体験型の学習を実施するものです。

●事業目的

「次代を担う子どもたちが、森林への理解と関心を深めるとともに、人と豊かに関わる力をはぐくむ」ことを目的としています。

●学習のねらい

- ・森林に入り、木や草などに触れ、森林に興味を持ったり、親しみをもったりする。
- ・森林での体験を通して、森林のはたらきや重要性について理解を深めることができる。
- ・森林の中の危険性に気づき、回避する力を身につける。
- ・ルールを守り、楽しく体験学習をすることで、優しさや思いやり、協力し合う心をはぐくむ。

●事業システム

○県の教育・森林各担当課及び森林センターの支援のもと、日程・施設・学習プログラムを各学校が主体となって決定し、学校とやまのこ専任指導員が連携してチームティーチングで実施します。

○やまのこ学習は当日だけでなく事前・事後も含めた学習ととらえ、その事前・事後の学習を通して森林と琵琶湖をつなぐ学習に発展させたいと考えています。

●経費

当日の教材費・移動経費、および事前・事後の学習経費は、琵琶湖森林づくり県民税により実施されます。

高山キャンプ場のフィールド

●場所

- 長浜市高山町
- 伊吹山系の一つ、金糞岳（県下2位、1317m）のふもとにあります。
- 姉川の支流・草野川の源流に位置しています。

●歴史

- 昭和35年頃まで、高山は養蚕が盛んな地域でした。
- 山の各地で、炭焼きが盛んに行われていました。
- 生活に必要な燃料や道具、食材の採取が行われ、山にはたくさんの人が入り、暮らしに欠かせない場所として利用されていました。
- 今では養蚕も衰退し、桑畑であったところにはスギ・ヒノキが植えられています。林業の不振から十分な手入れがされず、荒廃した林が目立っています。



●自然

- 気候は、冬季に降水量の多い日本海型気候区。1. 5m以上の積雪になることもあります。
- 植生は山地上部はブナを代表とする冷温帯落葉樹林、山地下部はカシ類を代表とする照葉樹林ですが、炭焼きなどの人為影響を受けて、アベマキ・コナラの落葉広葉樹二次林が主体となり、スギ・ヒノキの人工林が点在しています。
- キャンプ場の周りには、スギ・ヒノキの人工林、竹林、コナラやアベマキなどの雑木林があります。（ほとんどが個人所有の林です）
- キャンプ場をはさむ草野川の2本の支流（東俣谷川、西俣谷川）では、カワゲラやトビゲラなどの水生生物が多数生息しています。
- 動物は、ツキノワグマやシカ、イノシシ、キツネなど。また、野鳥も多く生息しています。



人工林



溪流探検遊歩道



<施設概要>

- 森林環境学習施設
- バンガロー
- キャンプ場
- 炊事場